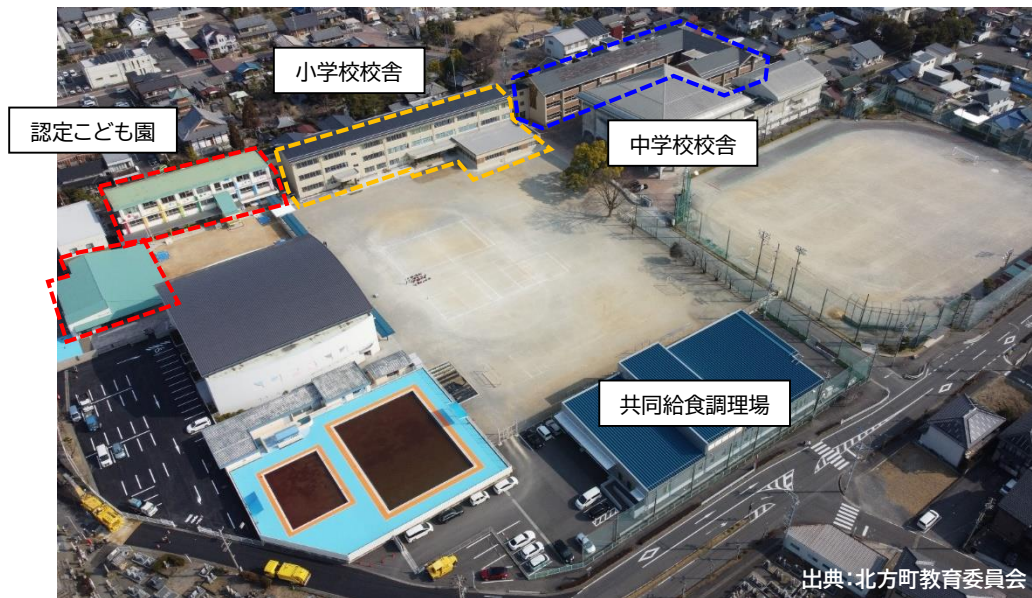


○幼保小中がつながる学び舎「北方学園」の視察について

9月27日（水）に令和5年4月に開校・開園したばかりの岐阜県本巣郡北方町にある義務教育学校「**北方町立北学園**」と幼保連携型認定こども園「**北方町立こども園**」の視察に行ってきました。まずはこの上空からの建物の画像をご覧ください。



よく見ると、**小学校**と**中学校**が隣同士にあり、**施設間を渡り廊下**で繋げながら、同じ敷地内に**認定こども園**が併設されています。

「どこかで聞いたことのあるフレーズ…」

そうです。私たちの愛読書「川岸学園構想」で掲げている「**異年齢の子どもをつなぐ、新たな学び舎**」を岡谷市よりも先に形にしていたのが、この**北方町**なんです。簡単に北方町の説明をすると、県庁所在地の岐阜市に隣接するベッドタウンとして栄え、町の面積はわずか **5.18 km²**。その面積の中に約18,600人の方が住んでおり、人口密度の高さは県内ダントツ1位。（岡谷市は長野県内で二番目に人口密度の高い自治体で人口密度 542人/km²ですが、対する北方町は3,602人/km²!!）

この岡谷市と住環境が似ている北方町で平成29年12月に「**北方学園構想**」が発表されました。

構想の内容は町内にある3つの小学校と1つの中学校を統合し、2つの義務教育学校へ移行（つまり、小学校3校→2校、中学校1校→2校）し、町内の幼稚園と保育園を再編し、幼保連携型認定こども園を義務教育学校の校地内に併設するというものでした。

<開校・開園のあゆみ>

平成29年12月	北方学園構想を発表	* 北方学園… 義務教育学校の北学園と南学園、認定こども園の総称
令和元年6月	北方学園構想基本計画を発表	
令和5年4月	北学園・南学園・こども園を開校・開園	

ここからは、実際に視察した北学園とこども園の施設を見ていきます！

■北学園（義務教育学校）

◆校舎（小中学校）



小学校の校舎を新築して、既存の中学校校舎と渡り廊下で接続。小学校校舎の一階に小中合同の職員室を配置。

◆普通教室（小学校校舎）



全室に65型のディスプレイとプロジェクターを設置。プロジェクターはホワイトボードの場所に取り付けて使用。

◆小中合同職員室



校庭で遊ぶ子どもたちの様子がわかるよう、部屋の中から校庭が見渡せる場所に配置。

◆多目的スペース（小学校校舎内）



多目的スペースは認定こども園の園舎に近い場所に設置。ステージがあるため、園児たちもリズム室や発表会に使用。

北学園の特色ある取組

- ① 1～4年生(1部)は『基礎・基本の徹底』、5～7年生(2部)は『思考力、表現力を伸ばす』、8～9年生(3部)は『個性を伸ばす』と位置づけ、4-3-2の学年段階の区切りを採用。
- ② 独自教科「**北方科**」を設定し、総合的学習の時間を使って、ふるさと学習を実践。北方科の授業に使用する独自の教科書(上巻、下巻2冊)も合わせて作成。
- ③ 各科目ごとに15年間の一貫したカリキュラムマップを作成。つまづきが多い単元や間違いやすいポイントを図示した子ども用の「**わかりやすいカリキュラムマップ**」を作成。
- ④ ペア学年等を活用した異学年交流の実施。8年生(中学2年生)がタブレットを使って、近所の道路にある標識や危険箇所をクイズ形式で2年生に紹介する取り組み。

■こども園

◆園舎（新築）



新設した園舎。かわいらしいこども園のロゴが見えます。新園舎は未満児の保育室を配置。

◆園舎（既存校舎を改修）



元小学校の校舎を改修し、園舎に転用。1階と2階に以上児（3歳児以降）の保育室を配置。

◆保育室（以上児用）



小学校の校舎を改修。年少は2つの教室を壁で区切って、3つの保育室にして利用。*梁（はり）が部屋の間にあるのがわかります。

◆図書室（小学校校舎）



認定こども園と小学校の共用図書館。園舎から渡り廊下を通過して、すぐの場所に設置されています。

■共同給食調理場

◆給食調理場



保育園、小学校、中学校の給食を釜毎に分け、具材のサイズ等を変えて、同じ献立メニューで調理。全保育園、学校の給食 2200食分/日をここで作っています。

◆給食の配膳



給食調理場から配送される給食の受入場所。校舎内の配膳室につながっており、その横には小中ともエレベーターが設置されている。

○視察の感想と今後に向けて

北方学園の施設の視察を通じて、岡谷市が参考にし、今後の川岸学園構想の施設整備に活かしたいポイントは以下の点になります。

- ① 共用の第1図書館や多目的室などを両方からアクセスしやすい場所に配置。
- ② 5～6年生の教室を中学校校舎に配置し、校舎の一部を認定こども園に転用。
- ③ 理科室や音楽室等の特別教室は中学校校舎を活用。
- ④ 共同給食調理場の設置による給食調理の効率化。

①については、多目的室や共同の図書館など、人が多く集まる教室をせっかく作ったとしても、そこまでのアクセスが良くないと日常的な交流が生まれにくくなってしまいますので、教室の配置場所を十分に検討し、異年齢の子どもたちが自然と交流できるように考えていく必要があります。

②と③では、川岸小学校の長寿命化大規模改修工事において、子どもたちの学びに必要な教室をしっかりと確保しつつ、岡谷西部中学校の普通教室や特別教室を活用を視野にトータルで考えて、面積の総量を抑制しながら整備することが重要だと感じました。

④において、北方町では幼保小中で献立メニューを統一させ、全ての給食調理を一か所で作っていました。施設の運営効率化という点で共同給食調理場は大きなメリットがありますので、実現に向けて、課題をしっかりと整理したいと思います。

今回は、施設配置をしっかりと考えた上で、全ての施設がつながって、「これぞ学園！」という一体感を肌で感じ、異年齢の子どもたちが元気よく生活している姿を見ることが出来、大変有意義な視察となりました。私たちも与えられた条件の中で、魅力と活力ある素敵な学園を作りたいと思います。

(参考) 北学園とこども園の配置図

